

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第9回

風車の描かれた絵画を 発見する楽しみ

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

▼ブリュゲルの「バベルの塔」

いま、上野の東京都美術館でブリュゲル「バベルの塔」展が開催されている(2017年4月18日~7月2日)。これは、オランダのロッテルダムのホイマンス・ヴァン・ペニンゲン美術館所蔵の「バベルの塔」(左上図、1563年、60×74・5センチ、The Bible, Tower of Babel)である。旧約聖書に基づいた巨大な塔が天にそびえた絵である。

に、4枚翼のポストミル(粉ひき風車)が描かれているのを発見できる。

▼ブリュゲルの絵に描かれた風車

ピーテル・ブリュゲルは、1525年頃にオランダの農村に生まれた。特に絵画の教育を受けたかったため当初評価はよくなかったが、農民を描いた力強さを感じる作品が多い。宗教画についても深い洞察が感じられる。

「千草の収穫」(1565年、117×161センチ)では、生活感に満ちたスケッチの中に、丘の上に鎮座するポストミルを象徴的に描いている。同様の取り上げ方に、「石弓大会のある村の風景」がある。

▼プロヴァンスの画家たちが描いた風車

プロヴァンス地方は地中海に面した南フランスであり、ファブールの故郷でもあり、ドーデの「風車小屋のたより」でも有名である。ドーデの風車小屋は、アルルの郊外、約10キロのフォンヴィエイユにある。プロヴァンス地方は、ミストラルという強風の北風が吹き、風車には適地である。

アルルは、セザンヌの故郷であり、ゴッホ(1853~90年)の滞在地である。1888年から滞在した(ゴーギャンと事件を起こす)。ゴッホは、アルルで「黄色い家」(1888年、76×94センチ)のほか風景画をたくさん描いた。「農夫が犁(すき)で耕している畑」(1889年、54×67センチ)には、ドーデのタワーミルが描かれている。風車小屋に向かう松並木

の一本道が「風車のある風景」(1650年代後描かれてい半)を残している。銅版画には、ハンス・ポル(1534~1593年)の「アントウエルペンでの氷すべり」があり、スケッチをしている川の岸辺に立つポストミルを描いている。レンブラントも、自然と人間の対象として風車を描いており、エッチングの「風車」(1641年)では、風車の番兵としての製粉所の関係を描き、「オンフォール村」(1645年)では、遠景に風車を置いているが、近くの柳の木には恋人達を木陰に隠している。

▼風車絵画の魅力
写真やビデオのない時代に、証拠としては絵画が有力であった。風車は、生活に密着した対象であり、ランドマークであるので、風景画のモチーフには最適であった。私は、美術館の絵画を、風車を描いているかどうかを発見するため、走り見している。また、露店市でも風車が描かれた絵があり、掘り出し物の風車の絵を発見することは楽しみである。私は何枚かの風車の絵を手に入れている。

「人間嫌い」(1568年、86×85センチ)では、のどかに広がる牧畜を営む人と羊の背景にはポストミルがあるが、前面にはガラスの円形の中に潜むぼろを着た人影(この世の悪の象徴)が、暗い修道士の衣を着ている老人の財布を切り落とそうとしている。この図の下部には、「世界はあまりにも不誠実であるので、私は喪服を着ている(喪に服す)」と書かれている。

「十字架を担うキリスト」(1564年、124×170センチ)は、50人以上も描いて、キリストが刑場へ向かう場面の背景にある岩山の上には風車を配置し、自然と人間、宇宙を表現している。同じタイトル別の画家の作品もあるがこれ

「人間嫌い」(1568年、86×85センチ)では、のどかに広がる牧畜を営む人と羊の背景にはポストミルがあるが、前面にはガラスの円形の中に潜むぼろを着た人影(この世の悪の象徴)が、暗い修道士の衣を着ている老人の財布を切り落とそうとしている。この図の下部には、「世界はあまりにも不誠実であるので、私は喪服を着ている(喪に服す)」と書かれている。

プロヴァンス地方は地中海に面した南フランスであり、ファブールの故郷でもあり、ドーデの「風車小屋のたより」でも有名である。ドーデの風車小屋は、アルルの郊外、約10キロのフォンヴィエイユにある。プロヴァンス地方は、ミストラルという強風の北風が吹き、風車には適地である。

アルルは、セザンヌの故郷であり、ゴッホ(1853~90年)の滞在地である。1888年から滞在した(ゴーギャンと事件を起こす)。ゴッホは、アルルで「黄色い家」(1888年、76×94センチ)のほか風景画をたくさん描いた。「農夫が犁(すき)で耕している畑」(1889年、54×67センチ)には、ドーデのタワーミルが描かれている。風車小屋に向かう松並木

の一本道が「風車のある風景」(1650年代後描かれてい半)を残している。銅版画には、ハンス・ポル(1534~1593年)の「アントウエルペンでの氷すべり」があり、スケッチをしている川の岸辺に立つポストミルを描いている。レンブラントも、自然と人間の対象として風車を描いており、エッチングの「風車」(1641年)では、風車の番兵としての製粉所の関係を描き、「オンフォール村」(1645年)では、遠景に風車を置いているが、近くの柳の木には恋人達を木陰に隠している。

▼近世の画家たちが描いた風車
このほか、モンドリアン(1872~1944年)は「風車」(1905年)は、ランドマークであり、64×79センチ、07年、「日光のなかの風車」(1908年)、「赤い粉ひき場」(1911年、150×86センチ)の中で風車を描いている。後者は、風車を人間に似せて進化を描いているという。トマス・ゲインズボロの「風車のある風景」は、ガラス画である。

私は何枚かの風車の絵を手に入れている。

「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

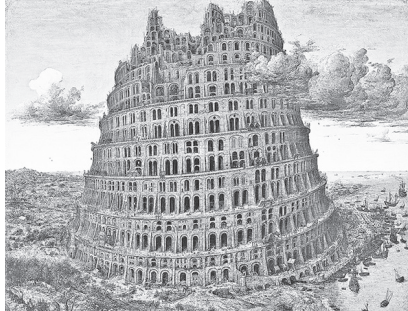
「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

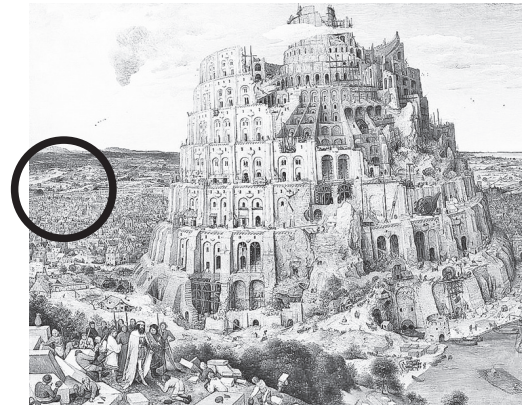
「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景



円の中に風車が描かれた「バベルの塔」



「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景

「バベルの塔」には、絵の背景